

第十講 重装歩兵戦術の展開：兵制と国制

背景 近代の中の研究の枠組み

兵制と国制の連動という枠組み

例 マックス・ウェーバー、『古代農業事情』「序説」

古代の政治哲学の国制史観

国制循環論

王制＞貴族制＞僭主制＞民主制＞衆偶制＞王制＞貴族制＞・・・・・・・・

近代歴史学における国制史観

国制進化論

王制＞貴族制＞僭主制＞民主制＞衆偶制

国制の進化を促進する兵制の変化と社会階層

戦車兵＞騎兵＞重装歩兵＞水兵と軽装歩兵

学説史

古典学説

ニールハウス：装具の段階的採用。

前7世紀後半以降に戦術の完成。

古典学説批判

ロリマー：ニールハウスの段階説を批判

装備と戦術は一致

前7世紀前半に全ギリシアで重装歩兵戦術と装備が完成

盾を重視＝ファランクスを形成

アルゴスでの青銅製兜と胸鎧の発見の問題

1953年に発掘

出土品の年代：前8世紀中ごろ

前700年頃のデルフォイの壺に描かれる盾に腕輪（ポルパックス）が付属



ウェブスター：重装歩兵戦術の成立を前8世紀前半に引き上げる

新古典学説の形成

スノドグラス

騎馬の重装歩兵の発見

前750年頃

最初の重装歩兵は農民軍ではなかった

徒歩の重装歩兵の出現

前650年頃

騎馬の重装歩兵と並存

騎馬の重装歩兵の指導性

徒歩の重装歩兵の補助的位置

壺絵における笛吹の出現＞ファランクスの形成

走る重装歩兵の形成

前 550 年頃

装具の軽量化

兜：コリント式からカルキディケー式／アッティカ式へ

鎧：布を用いた複合式の普及

ペルシア戦争は彼らによって戦われた

更なる軽量化

前 431 年頃

キャップ型の兜（ピロス）

卵型の盾

ペロポネソス戦争以降

傭兵としての軽装歩兵の拡大

ペルタスタイ（盾兵）